

# 再評価結果（令和元年度事業継続箇所）

担当課：都市計画課  
担当課長名：森 琢真

事業名	街路事業 都市計画道路 徳島東環状線 <small>とくしまがしかんじょうせん</small>		事業区分	街路	事業主体	徳島県
起終点	自：徳島県 徳島市 末広2丁目 <small>とくしま とくしま すえひろ ちようめ</small> 至：徳島県 徳島市 住吉6丁目 <small>とくしま とくしま すみよし ちようめ</small>				延長	1.77km
事業概要：当路線は、徳島外環状道路の東部に位置し、徳島東環状線及び国道192号徳島南環状道路で形成される地域高規格道路であり、四国横断道と一体となり、地域の連携強化を図るとともに、徳島市内の慢性的な渋滞を解消し、円滑な交通を創出、地域振興、防災対策に寄与する重要な社会基盤である。本事業は、阿波しらすぎ大橋から末広大橋までの間について、高架構造により整備を行うものである。						
平成7年度事業化		平成6年度都市計画決定 (平成14年度変更)		平成8年度用地着手		平成8年度工事着工
全体事業費	520億円		事業進捗率	83.4%	供用済延長	(側道)1.8km (高架)0.9km
計画交通量	32,500台/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.2 (残事業) 1.6	総費用：(残事業)/(事業全体) 57.6/779.5億円 事業費：57.3/778.1億円 維持管理費：0.3/1.4億円	総便益：(残事業)/(事業全体) 89.5/900.7億円 走行時間短縮便益：72.9/721.9億円 走行経費減少便益：12.4/126.6億円 交通事故減少便益：4.2/52.2億円	基準年： 令和元年度		
感度分析の 結果	【事業全体】交通量：B/C=1.04~1.27(交通量±10%) 事業費：B/C=1.05~1.29(事業費±10%) 事業期間：B/C=1.15~1.16(事業期間±1年)		【残事業】交通量：B/C=1.40~1.71(交通量±10%) 事業費：B/C=1.41~1.73(事業費±10%) 事業期間：B/C=1.48~1.63(事業期間±1年)			
事業の効果等						
<ul style="list-style-type: none"> <li>円滑なモビリティの確保：国道11号等の徳島市及び周辺地域の渋滞緩和。</li> <li>国土、地域ネットワークの構築：マリンピア沖洲や徳島市中央卸売市場へのアクセス向上。</li> <li>災害への備え：徳島県地域防災計画で指定された第2次緊急輸送道路の整備。</li> <li>安全で安心できる暮らしの確保：自転車、歩行者の安全性の向上。</li> </ul>						
関係する地方公共団体等の意見						
<ul style="list-style-type: none"> <li>徳島環状道路建設促進期成同盟会や徳島市より整備促進の要望が続けられている。</li> </ul>						
前回再評価時より今回再評価実施までの周辺環境変化等						
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成24年4月に阿波しらすぎ大橋～徳島東環状線（川内工区）が供用。平成31年3月に安宅交差点までを供用。</li> <li>上記供用により、国道11号吉野川大橋の交通量の3割が徳島東環状線にシフトし、渋滞緩和に貢献。</li> <li>平成29年4月に大型商業施設が開業。</li> <li>令和2年度に徳島東IC～津田IC間が開通予定。</li> </ul>						
事業の進捗状況、残事業の内容等						
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成15年7月（都）元町沖洲線から（都）東吉野町北沖洲線まで1.1kmを側道部暫定2車線供用</li> <li>平成24年4月 阿波しらすぎ大橋供用</li> <li>平成27年3月 安宅交差点南向き下りランプ供用</li> <li>平成31年3月 同区間北向き上りランプ供用。吉野川南岸から安宅交差点まで順次供用。</li> <li>高架橋下部工は、全41基中29基が完成しており、今後、末広大橋までの残る区間の整備を進める。</li> </ul>						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等						
<ul style="list-style-type: none"> <li>事業効果の早期発現のため、段階的な供用を図り、早期完成に努めている。</li> </ul>						
施工の構造や工法の変更等						
<ul style="list-style-type: none"> <li>側道部の現道交通や交差点部の安全面に配慮した施工方法を採用し、交通規制の短縮を図った。</li> <li>今後、安宅交差点以南から末広大橋区間においても、現道区間が続くことから橋梁形式の変更や施工方法の検討を行い、現道交通への影響を抑えるとともにコスト縮減を図る。</li> </ul>						
対応方針	事業継続					
対応方針の決定理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>以上の事業の効果、進捗状況等を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。</li> </ul>					
事業概要図						

※総費用、総便益とその内訳は各年次の価格を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものです。